

熊本大学六十年史

部局史編

熊本市史編

部局史編

題字  
神野  
雄二



校旗



校章

熊本市の市木であり、本学キャンパス内にも多く植えられている「銀杏」をモチーフにしたもの  
1950年制定



Kumamoto University

コミュニケーションマーク

本学法人化後、「対外的・対内的コミュニケーションの活発化」を目的とし作成されたもの  
2006年制定













黒髪キャンパス配置図◇2010年



黒髪キャンパス◇1963年



黒髪キャンパス◇1979年



黒髪キャンパス◇1991年









本荘・九品寺キャンパス◇2010年





本荘・九品寺キャンパス配置図◇2010年



本荘・九品寺キャンパス◇1963年





本荘・九品寺キャンパス◇1985年



本荘・九品寺キャンパス◇1991年









大江キャンパス◇2010年





大江キャンパス配置図◇2010年



大江キャンパス◇1963年





大江キャンパス◇1985年



大江キャンパス◇1991年





京町キャンパス配置図◇2010年



京町キャンパス◇1985年





京町キャンパス◇2010年



京町キャンパス◇1991年





城東町キャンパス◇2010年



城東町キャンパス◇1985年



城東町キャンパス◇1991年





## 発刊のことば

熊本大学長 谷口 功

本学は250余年前に設立された再春館と蕃滋園に源を発し、また、熊本大学の母体となる第五高等学校から120余年の我が国で最も長い歴史を持つ大学としてその輝く伝統を誇っています。1949年、戦後の学制改革によって熊本市に所在していた第五高等学校、熊本医科大学、熊本薬学専門学校、熊本師範学校、熊本青年師範学校、熊本工業専門学校など旧制の諸学校が統合され、新しい制度の国立大学として新制熊本大学が誕生しました。2009年にはこの新制大学設立から60周年を迎え、様々な記念式典や事業を執り行いました。

この部局史編は、先に刊行された写真集と同様、記念事業の一つである60年史編纂事業の中で作製されたもので、各部局の変遷の歴史がその細部にわたって見事に再現されています。学内外の各部局関係者の協力によって執筆され、2年半以上の歳月をかけて編集されたものです。懐かしい出来事の記載やそれらを基盤として発展してきた様子が鮮明に蘇ります。

周知の通り、新制熊本大学の設立当初は、法文・教育・理・医・薬・工の6学部、附属図書館、医学部附属病院、体質医学研究所からなり、当時の大学の規模は、学生の入学定員が1,070名、教員と職員を合わせた定員は1,484名でした。今日では、この部局史編に記載の通り、文・教育・法・理・医・薬・工の7学部のほか、8つの大学院研究科等、13の研究所・センター、さらに医学部附属病院を有し、学生総数は1万名を超え、常勤の教員・職員合わせて約2,000からなる中核的な総合大学に発展しています。この間、本学は10万人を遥かに超える有為な人材を社会に送り出してきました。この変遷や発展の様子を部局史編の中に見いだしていただければ幸いです。

この部局史編に示された各部局の様々な活動の歴史を基盤として、本学は、これからも大学の社会的使命である教育（人材育成）、研究（知の創造）、社会貢献（人材や知の創造に基づく社会的な還元）に邁進することで、次の60年、100年に向けて一層の飛躍を期したいと思います。

結びに、この部局史編の編纂に際して、多大の時間を割いて執筆いただいた学内外の執筆者や協力者の方々ならびに編纂にご尽力いただいた編纂委員はじめ60年史編纂室の皆様にご心から感謝の意を表し、巻頭のことばとします。







発刊のことば

# 第1編 生命科学系

## 第1章 医学部

第1節 沿革	4
第2節 組織の変遷	7
第1項 再春館医学寮から官立熊本医科大学まで	7
1 肥後医育の黎明期	
2 私立熊本医学校から官立医科大学まで	
第2項 熊本大学医学部発足から医学系大学院部局化まで	12
1 総合大学発足と戦後の医学教育改革	
2 附属研究施設の設置	
3 附属研究施設の時限廃止を契機とした医学部の教育・研究組織の改組	
4 医学部百周年と財団法人肥後医育振興会設立	
5 部局化の流れ	
6 部局化による新しい教育研究体制の確立	
第3項 大学院重点化から現在まで～新しい医学教育の流れ～	23
1 大学院重点化に伴う新しい学部教育体制	
2 6年一貫教育の開始と医学教育モデル・コア・カリキュラムの導入	
3 共用試験の導入	
4 全国的な医師不足と医学部医学科の定員増	
第3節 施設の変遷	25
第1項 熊本城内二の丸からの帰還と熊本大学発足後の再開の流れ	25
第2項 本荘北地区の再開	27
1 医学部附属病院の再開	
2 医学部施設の北地区への移転	
第3項 本荘中地区の再開	30
第4項 本荘南地区の再開	30
第5項 幻の移転計画	31
1 移転計画の背景	
2 移転計画挫折の経緯	
第4節 各施設の概要	33



第1項	基礎医学研究棟	33
第2項	医学総合研究棟	34
第3項	医学教育図書棟	35
第4項	外来臨床研究棟	35
第5項	山崎記念館	35
第6項	附属病院	38
<b>第5節</b>	<b>進む再開発</b>	38
第1項	再開発計画の概要	38
第2項	再開発Ⅰ期計画：西病棟	39
第3項	再開発Ⅱ期計画：新中央診療棟	39
第4項	再開発Ⅲ期計画：東病棟	40
第5項	再開発Ⅳ期計画：外来診療棟	40
<b>第6節</b>	<b>医学部医学科同窓会「熊杏会」と財団法人肥後医育振興会</b>	41
第1項	同窓会の変遷	41
第2項	同窓会再結成（1956年10月20日）以降	41
第3項	財団法人肥後医育振興会	42
<b>第7節</b>	<b>将来への展望</b>	42

## 第 2 章 医学教育部

<b>第1節</b>	<b>沿革</b>	46
<b>第2節</b>	<b>大学院医学研究科の設置</b>	46
<b>第3節</b>	<b>大学院部局化への途</b>	49
第1項	日本における大学院部局化の流れ	49
第2項	大学院医学研究科独立専攻系の設置	50
第3項	大学院医学研究科修士課程の設置	51
<b>第4節</b>	<b>大学院部局化に伴う大学院医学研究科の廃止と大学院医学教育部の設置</b>	52
第1項	多様な大学院様式の出現	52
第2項	大学院医学教育部の設置	53
第3項	大学院医学教育部（博士課程）の単一専攻化と授業科目改革	55
第4項	外国人留学生の増加	57
<b>第5節</b>	<b>大学院教育の改革</b>	57
第1項	入学者へのガイダンスの充実とシラバス（授業計画書）の作成	57
第2項	学生及び教員の意見の聴取に基づく教育改革の実施	58
第3項	大学院博士課程への入学を促進するための取り組み	58
1	博士課程における在学期間短縮制度の導入	
2	大学院・博士課程学生へのTA・RA雇用並びにKWS奨学制度の導入	
3	修士課程からの博士課程進学者を増やす試み	
4	社会人学生並びに女性への就学支援	
5	eラーニングの整備	



6	他大学の大学院や診療、研究施設との学術連携及び単位互換制度の締結	
7	M.D.-Ph.D.コースの設置	
第4項	大学院の国際化推進と留学生の支援	59
1	留学生の10月入学制度の実現並びに博士課程のシラバス及び授業の英語化	
2	海外の研究機関及び研究者との国際交流の推進	
第5項	博士課程における厳格な学位審査	60
第6項	厳格な教員の資格審査と表彰制度の導入	60
第7項	大学院教育 Faculty Development (FD) 活動の実施	60
第8項	大学院教育改革を支える多様な外部資金の獲得	60
1	グローバルCOEプログラム「細胞系譜制御研究の国際的人材育成ユニット」	
2	グローバルCOEプログラム「エイズ制圧を目指した国際教育研究拠点」	
3	熊本大学臨床医学疫学機関連携事業	
4	魅力ある大学院教育イニシアティブ「エイズ制圧を目指した研究者養成プログラム」	
5	がんプロフェッショナル養成プラン「九州がんプロフェッショナル養成プラン」	
6	大学院教育改革支援プログラム「臨床・基礎・社会医学一体型先端教育の実践」	
7	熊本大学大学院先導機構が推進する拠点形成研究	
第6節	将来構想	62

## 第 3 章 医学部附属病院

第1節	沿革	64
1	附属病院の理念と基本方針	
第2節	附属病院中央診療施設等及び各部門	65
第3節	院内措置の診療支援組織	67
1	中央病歴室	
2	栄養管理室	
3	栄養サポートチーム (NST)	
4	インфекションコントロールチーム (ICT)	
5	褥瘡対策室及び褥瘡対策チーム	
6	緩和ケアチーム	
第4節	新たな院内・卒後教育体制	69
第5節	拠点病院等	70
第1項	エイズ治療の拠点病院・エイズ治療の中核拠点病院	70
第2項	都道府県がん診療連携拠点病院	71
第3項	肝疾患診療連携拠点病院	71
第4項	熊本県基幹型認知症疾患医療センター	71
第5項	高次脳機能障害者支援拠点機関	72
第6節	医療の質の向上への取り組み	72
第1項	国際標準ISOの認証取得	72
第2項	日本医療機能評価機構の認証取得	72



第3項	医療の質管理センターの設置 .....	73
<b>第7節</b>	<b>病院内教室・部門史 .....</b>	<b>73</b>
第1項	中央診療施設等及び各部の歩み .....	73
1	中央手術部	
2	集中治療部	
3	中央放射線部	
4	中央材料部	
5	医療情報経営企画部	
6	救急・総合診療部	
7	中央検査部	
8	リハビリテーション部	
9	病理部	
10	感染免疫診療部	
11	輸血・細胞治療部	
12	血液浄化療法部	
13	光学医療診療部	
14	総合臨床研修センター	
15	治験支援センター	
16	高度医療開発センター	
17	地域医療連携センター	
18	周産母子センター	
19	ME機器センター	
20	地域医療支援センター	
21	がんセンター	
22	医療の質管理センター	
23	薬剤部	
24	看護部	
25	医療技術部	
26	医療安全管理部	
第2項	寄附講座 .....	93
1	不整脈先端医療寄附講座	
2	心血管治療先端医療寄附講座	
3	機能神経外科先端医療寄附講座	
4	循環器臨床研究先端医療寄附講座	
5	新生児学寄附講座	
6	地域医療システム学寄附講座	
<b>第8節</b>	<b>将来構想 .....</b>	<b>95</b>



## 第 4 章 保健学教育部

第 1 節 保健学教育の沿革	98
第 1 項 前身校	98
1 医学部附属看護学校・助産婦学校	
2 医学部附属診療放射線技師学校	
3 医学部附属臨床検査技師学校	
4 熊本大学医療技術短期大学部	
5 熊本大学教育学部特別教科(看護)教員養成課程	
第 2 項 熊本大学医学部保健学科	100
第 3 項 熊本大学大学院保健学教育部保健学専攻	100
第 4 項 部局長一覧	100
第 2 節 各専攻の歩み	102
第 1 項 保健学科の設置に至るまでの経緯とその全体概要	102
第 2 項 医療技術短期大学部一般教養学科	102
第 3 項 医学部保健学科看護学専攻	107
1 医学部附属看護学校—29年間の歩み	
2 医療技術短期大学部看護学科—30年間の歩み	
3 医学部附属助産婦学校	
4 医療技術短期大学部助産学特別専攻	
5 教育学部特別教科(看護)教員養成課程	
6 医学部保健学科看護学専攻	
第 4 項 医学部保健学科放射線技術科学専攻	118
1 医学部附属診療エックス線技師学校・診療放射線技師学校	
2 医療技術短期大学部診療放射線技術学科	
3 医学部保健学科放射線技術科学専攻	
第 5 項 医学部保健学科検査技術科学専攻	125
1 医学部附属衛生検査技師学校・臨床検査技師学校	
2 医療技術短期大学部衛生技術学科	
3 医学部保健学科検査技術科学専攻	
第 6 項 国家試験の合格率	133
第 3 節 保健学教育部の概要	137
第 1 項 修士(博士前期)課程	137
1 看護学分野	
2 医用放射線科学分野	
3 検査技術科学分野	
4 教育課程(カリキュラム)	
第 2 項 博士後期課程(2010年4月～)	139
第 4 節 記念事業	140

第5節 将来構想 .....	141
1 アドミッションポリシーの概略	
2 保健学における人材育成	
第6節 医学部保健学科同窓会 .....	142

## 第 5 章 薬学部

第1節 沿革(年表) .....	146
第2節 概要 .....	147
第1項 戦前及び薬学部開設まで .....	147
1 熊本薬学校以前	
2 私立熊本薬学校	
3 私立九州薬学専門学校	
4 熊本薬学専門学校	
第2項 薬学部開設から薬科学科に改組 .....	151
1 熊本大学薬学部の開設	
2 薬学部充実の動向	
3 研究棟・施設の整備と記念碑の建立	
4 薬科学科への改組	
第3項 薬科学科への改組から部局化・法人化まで .....	157
1 熊薬創立百周年を迎えて	
2 部局化・法人化へ向けて	
第4項 法人化・部局化から現在(4年制・6年制併設)まで .....	164
1 法人化・部局化に伴う薬学部組織の充実	
2 新薬学教育体制	
3 薬学共用試験・実務実習開始	
第5項 将来の構想 .....	169
第3節 施設の変遷 .....	171
第1項 薬学部建物の新築と大改修 .....	171
第2項 生命資源研究・支援センター(RI実験施設、機器分析センター) .....	173
1 沿革	
2 大江地区RI施設	
3 機器分析センター	
第3項 実験動物施設 .....	175
1 沿革	
2 施設・設備	
3 管理運営	
4 実験状況	
5 実験動物の慰霊	
第4項 体育館の新設 .....	176



第5項	蕃滋館の新設 .....	176
第6項	大江総合研究棟 .....	177
第7項	熊薬同窓会館（宮本記念館及び百周年記念ホール） .....	178
第8項	創薬研究センター .....	178
第9項	育薬フロンティアセンター .....	179
<b>第4節</b>	<b>教育・研究基盤の拡充</b> .....	<b>180</b>
第1項	薬学部所属分野 .....	180
1	医療薬学分野	
2	臨床薬理学分野	
3	薬学部病態薬効解析学分野（寄附講座）	
4	先端DDS学分野（寄附講座）	
5	医薬高分子学分野（寄附講座）	
第2項	ISO14001取得 .....	181
第3項	教育GP .....	182
第4項	その他 .....	182
1	歴代校長・薬学部長	
2	附属図書館薬学部分館長一覧	
3	薬学部事務歴代役員一覧（1985年以降の異動分）	
4	熊本大学薬学部同窓会	
5	熊薬自治会	

## 第 6 章 薬学教育部

第1節	沿革・年表 .....	188
第2節	概要 .....	188
第1項	大学院薬学研究科の開設 .....	188
1	修士課程	
2	博士課程	
第2項	大学院独立専攻の開設 .....	195
1	臨床薬学専攻	
2	分子機能薬学専攻	
第3項	部局化・法人化及びその後の大学院教育 .....	198
1	大学院部局化	
2	薬学教育部の概要	
第4項	新薬学教育制度の開始 .....	204
1	4年制学科を基礎とする大学院博士前期課程の設置	
2	6年制学科を基礎とする大学院博士課程の設置	
第5項	将来の構想 .....	206
1	薬学部2学科制を基礎とした大学院の発展	
2	大学院研究教育のグローバル化と地域連携	

第3節 附属施設と教育・研究基盤の拡充 .....	207
第1項 薬学教育部附属薬用植物園 .....	208
1 薬用植物学分野	
2 臨床薬物動態学分野	
第2項 大学院GP .....	211
1 DDSスペシャリスト養成プログラム（2005年度～2006年度）	
2 創薬研究者養成プログラム（2007年度～2009年度）	
3 21世紀COEプログラム、グローバルCOEプログラム	
第3項 その他 .....	213

## 第 7 章 生命科学研究部

第1節 沿革 .....	216
第2節 医学薬学研究部の設置と生命科学研究部への改組 .....	216
第3節 研究部における組織運営 .....	219
第4節 教室史 I 総合医薬科学部門 .....	220
第1項 生体機能病態学講座 .....	220
1 基礎医学系分野	
(1) 形態構築学 (2) 生体微細構築学 (3) 分子生理学	
(4) 分子酵素化学 (5) 分子病理学 (6) 細胞病理学	
(7) 病態生化学 (8) 細胞情報薬理学	
2 臨床医学系分野	
(1) 呼吸器病態学 (2) 循環器病態学 (3) 消化器内科学	
(4) 腎臓内科学 (5) 泌尿器病態学 (6) 代謝内科学	
(7) 婦人科学	
第2項 感覚・運動医学講座 .....	231
1 臨床医学系分野	
(1) 視機能病態学 (2) 頭頸部感覚病態学 (3) 運動骨格病態学	
(4) 皮膚病態治療再建学 (5) 顎口腔病態学 (6) 侵襲制御医学	
第3項 生態情報分析医学講座 .....	235
1 基礎医学系分野	
(1) 機能病理学	
2 臨床医学系分野	
(1) 放射線治療医学 (2) 放射線診断学 (3) 病態情報解析学	
(4) 画像診断解析学(寄附講座)	
3 薬学系分野	
(1) 薬剤情報分析学	
第4項 薬物治療設計学講座 .....	239
1 基礎医学系分野	
(1) 生体機能薬理学	



2	臨床医学系分野	
	(1) 血液内科学	
3	薬学系分野	
	(1) 薬物治療学 (2) 薬物動態制御学 (3) 製剤設計学	
第5項	創薬科学講座 .....	242
1	薬学系分野	
	(1) 分子薬化学 (2) 構造機能物理化学 (3) 天然薬物学	
	(4) 薬物活性学 (5) 薬学微生物学	
<b>第5節</b>	<b>教室史II 先端生命医療科学部門 .....</b>	<b>245</b>
第1項	感染・免疫学講座 .....	245
1	基礎医学系分野	
	(1) 微生物学 (2) 免疫学 (3) 免疫識別学	
	(4) 感染防御学 (5) 感染症阻止学(寄附講座) (6) 感染制御学(寄附講座)	
第2項	脳・神経科学講座 .....	250
1	基礎医学系分野	
	(1) 神経分化学 (2) 脳回路構造学 (3) 知覚生理学	
2	臨床医学系分野	
	(1) 脳神経外科学 (2) 神経内科学	
第3項	医療技術科学講座 .....	253
1	保健学系分野	
	(1) 医用理工学 (2) 医用画像学 (3) 構造機能解析学	
	(4) 生体情報解析学	
第4項	成育再建・移植医学講座 .....	254
1	基礎医学系分野	
	(1) 分子遺伝学 (2) 腫瘍医学	
2	臨床医学系分野	
	(1) 産科学 (2) 小児科学 (3) 小児発達学	
	(4) 小児外科学 (5) 消化器外科学 (6) 心臓血管外科学	
	(7) 乳腺・内分泌外科学分野 (8) 呼吸器外科学 (9) 生体機能制御学	
第5項	分子機能薬学講座 .....	260
1	薬学系分野	
	(1) 遺伝子機能応用学 (2) 創薬基盤分子設計学 (3) 生体機能分子合成学	
	(4) 機能分子構造解析学 (5) 細胞機能分子解析学	
<b>第6節</b>	<b>教室史III 環境社会医学部門 .....</b>	<b>264</b>
第1項	環境生命科学講座 .....	264
1	基礎医学系分野	
	(1) 環境保健医学 (2) 公衆衛生・医療科学 (3) 法医学	
	(4) 生命倫理学	
2	臨床医学系分野	
	(1) 臨床行動科学 (2) 脳機能病態学(神経精神科)	

第2項	環境分析科学講座	267
1	薬学系分野 (1) 生命分析化学 (2) 環境分子保健学 (3) 薬学生化学	
第3項	看護学講座	269
1	保健学系分野 (1) 基礎看護学 (2) 看護教育学 (3) 臨床看護学 (4) 母子看護学 (5) 地域看護学	
第7節	将来構想(研究部)	270

## 第8章 生命資源研究・支援センター

第1節	生命資源研究・支援センターの沿革	272
第1項	概要	272
第2項	沿革	272
第3項	歴代センター長等	273
第2節	各分野の歩みと活動	274
第1項	病態遺伝分野	274
1	歴史・概略	
2	教育・研究	
3	研究支援業務	
4	社会貢献	
5	その他	
第2項	資源開発分野	276
1	歴史・概略	
2	教育・研究	
3	研究支援業務	
4	社会貢献	
第3項	技術開発分野	278
1	歴史・概略	
2	教育・研究	
3	研究支援業務	
第4項	バイオ情報分野	279
1	歴史・概略	
2	教育・研究	
3	研究支援業務	
4	社会貢献	
第5項	表現型クリニク分野	281
1	歴史・概略	
2	教育・研究	
3	研究支援業務	



4	社会貢献	
5	その他	
第6項	RI実験分野	283
1	歴史・概略	
2	教育・研究	
3	研究支援業務	
4	社会貢献	
第7項	機器分析分野	285
1	歴史・概略	
2	教育・研究	
3	研究支援業務	
4	社会貢献	
第3節	各施設の歩みと活動	286
第1項	動物資源開発研究施設	286
1	第1期：医学部附属動物実験施設（1979年～1998年）の時代	
2	第2期：動物資源開発研究センター（1998年～2003年）の時代	
3	第3期：生命資源研究・支援センター（2003年～現在）の時代	
第2項	遺伝子実験施設	290
1	設立の経緯	
2	施設の歩み	
3	ホームページ	
4	セララ・ディスカバリー・システム	
第3項	アイソトープ総合施設	292
1	アイソトープ総合施設（旧アイソトープ総合センター）	
2	本荘地区アイソトープ施設（旧本荘地区放射性同位元素総合研究室、本荘RI）	
3	黒髪地区アイソトープ施設（旧黒髪地区放射性同位元素総合研究室、黒髪RI）	
4	大江地区アイソトープ施設（旧薬学部放射性同位元素総合研究室、大江RI）	
第4項	機器分析施設	298
1	設立の経緯	
2	施設の歩み	
3	機器分析施設の設備	
第4節	将来構想	301

## 第 9 章 エイズ学研究センター

第1節	沿革	304
第1項	エイズ学研究センター設立までの経緯	304
第2項	組織概要	304
第2節	各分野の歩みと研究活動	305
第1項	ウイルス制御分野	305

1	沿革	
2	研究の概況	
3	今後の研究計画概要	
4	人員構成	
第2項	病態制御分野 .....	309
1	沿革	
2	研究概要	
3	今後の課題及び研究計画概要	
4	人員構成	
第3項	予防開発分野 .....	313
1	沿革	
2	研究概要	
3	人員構成	
第4項	流行阻止分野 .....	317
1	沿革	
2	客員教授、准教授	
3	外国人客員教授、助教授	
4	活動内容	
第3節	拠点化等の指定・選定 .....	318
第1項	臨床医学疫学機関連携事業 .....	318
第2項	熊本大学拠点形成研究A「エイズ等新興再興感染症に対する新たな治療開発 を目指した研究教育拠点」 .....	319
第3項	魅力ある大学院教育イニシアティブ「エイズ制圧を目指した研究者養成プロ グラム」 .....	319
第4項	グローバルCOE「エイズ制圧を目指した国際教育研究拠点」 .....	319
第5項	熊本エイズセミナー .....	320
第4節	将来構想 .....	320
第1項	課題と今後の取り組み .....	320
第2項	センター改組への取り組み .....	320
第3項	おわりに .....	321

## 第 10 章 発生医学研究所

第1節	発生医学研究所の歩み .....	324
第2節	組織の変遷 .....	324
第1項	体質医学研究所の沿革 .....	324
第2項	中毒研究施設の沿革 .....	327
第3項	免疫医学研究施設の沿革 .....	328
第4項	遺伝医学研究施設の沿革 .....	329
第5項	遺伝発生医学研究施設の沿革 .....	330



第6項	発生医学研究センターの沿革	331
第7項	発生医学研究所の沿革	333
<b>第3節</b>	<b>施設場所の変遷</b>	334
第1項	九品寺地区	334
第2項	医学部C棟	335
第3項	発生医学研究センター棟	335
<b>第4節</b>	<b>現在の体制と研究活動</b>	336
第1項	発生制御部門	336
1	細胞医学分野	
2	分子細胞制御分野	
3	組織構築分野	
4	損傷修復分野	
第2項	幹細胞部門	339
1	多能性幹細胞分野	
2	組織幹細胞分野	
3	幹細胞誘導分野	
4	分化制御分野	
5	iPS細胞研究担当	
第3項	器官構築部門	343
1	肝臓発生分野	
2	脳発生分野	
3	腎臓発生分野	
4	生殖発生分野	
5	個体発生担当	
第4項	客員分野	347
<b>第5節</b>	<b>研究基盤の拡充</b>	347
第1項	21世紀COE	347
第2項	グローバルCOE	349
第3項	熊本大学拠点A	350
第4項	共同研究拠点	351
1	文部科学大臣認定「発生医学の共同研究拠点」事業	
<b>第6節</b>	<b>将来構想</b>	352
1	臓器再建研究センター（仮称）	
2	研究機能開発センター（仮称）	

## 第2編 自然科学系

### 第1章 理学部

第1節 歩みと現況 .....	358
第1項 学部の発足とその後の推移 .....	358
第2項 理学部長、事務長・副事務長及び教官定員・現員の移動 .....	358
第3項 学部学生、卒業生及び同窓会 .....	364
第4項 キャンパスと建物 .....	366
第5項 学部の管理運営 .....	367
第6項 社会貢献活動 .....	369
第7項 理学専攻科と理学研究科 .....	369
第8項 附属研究施設 .....	371
1 附属合津臨海実験所	
2 極低温装置室	
第2節 学科の歩みと教育・研究活動 .....	374
第1項 数学科 .....	374
1 研究活動	
2 教育活動—カリキュラムの変遷	
3 教官（2004年以降は教員）組織の変遷	
4 その他の活動	
第2項 物理学科 .....	379
第3項 化学科 .....	385
1 教員組織の変遷	
2 教育活動・開講科目の変遷	
3 履修単位について	
4 学生の進学就職状況	
5 建物について	
6 2009年における各研究室の主な計測機器について	
7 各教員の研究内容について	
8 その他の活動	
第4項 地学科 .....	391
1 総説	
2 組織・研究教育体制に関する変遷	
3 教育・学生に関する変遷	



第5項	生物学科	397
1	生物教室の変遷—教室開設から30年の概要	
2	生物教室の変遷—充実期のこの30年	
3	各教員の教育と研究概要—この30年を振り返って	
第6項	環境理学科	403
1	学科の設立と変遷	
2	建物について	
3	教育	
4	研究	
第7項	理学科	405
1	学科の設立と目的	
2	教育	
第3節	将来の構想	408

## 第 2 章 工学部

第1節	沿革	412
第1項	前史及び工学部の発足	412
第2項	学科構成の変遷	414
第3項	大学院修士課程の誕生と変遷	415
第4項	特筆すべき出来事	416
第5項	熊本大学工業会	417
第6項	運動会、スポーツ大会と工学部学生会	417
第2節	物質生命化学科	418
第1項	沿革	418
第2項	工業化学科の時代(1949～1964年度)	419
1	工業化学第一講座	
2	工業化学第二講座	
3	工業化学第三講座	
4	工業化学第四講座	
第3項	工業化学科と合成化学科の時代(1965～1985年度)	420
1	無機工業化学講座	
2	無機合成化学講座	
3	反応工学講座	
4	工業物理化学講座	
5	放射能及び分析化学講座	
6	有機合成化学講座	
7	高分子合成化学講座	
8	有機工業化学講座	
第4項	応用化学科の時代(1986～1995年度)	423

第5項	物質生命化学科の時代（1996年度以後）	424
1	工業物理化学分野	
2	応用分離化学分野	
3	有機分子化学分野	
4	無機材料化学分野	
5	高分子材料化学分野	
6	集合分子化学分野	
7	微生物化学分野	
8	生物化学工学分野	
9	生命分子化学分野	
10	生命電子化学分野	
<b>第3節</b>	<b>マテリアル工学科</b>	428
<b>第4節</b>	<b>機械系学科</b>	428
第1項	沿革	428
第2項	組織と人事の変遷	430
第3項	研究内容の変遷	431
1	熱工学・流体工学	
2	加工学・材料学	
3	計測工学・制御工学	
4	材料力学・設計工学	
第4項	教育カリキュラムの変遷	441
第5項	学生会と卒業生組織	444
1	学生会	
2	機工会	
<b>第5節</b>	<b>社会環境工学科</b>	445
第1項	土木環境系学科	445
1	土木環境系学科の沿革と学科名の変遷	
2	人事と研究内容の変遷	
3	教育カリキュラムの変遷	
4	蘇遙会	
<b>第6節</b>	<b>建築学科</b>	458
第1項	沿革	458
第2項	年表	459
第3項	講座とカリキュラムの変遷	459
第4項	就職先の変遷と同窓会	460
第5項	教育研究分野の変遷	461
1	構造分野	
2	建築生産分野	
3	建築計画・都市計画分野	
4	建築史分野	



5	環境系の教育と研究	
<b>第7節</b>	<b>情報電気系学科</b> .....	470
第1項	沿革 .....	470
1	熊本大学工学部誕生前	
2	熊本大学工学部誕生後	
第2項	研究室の変遷 .....	470
1	先端情報通信講座	
2	機能創成エネルギー講座	
3	人間環境情報講座	
第3項	カリキュラムの変遷 .....	483
第4項	卒業生の進路 .....	485
<b>第8節</b>	<b>共通講座・数理工学系学科</b> .....	485
<b>第9節</b>	<b>採鉱学科・採鉱科・採鉱冶金学科・鉱山工学科・資源開発工学科・材料開発工学科(資源コース)</b> .....	488
第1項	沿革 .....	488
第2項	人事の変遷 .....	489
第3項	教育カリキュラムの変遷 .....	491
第4項	卒業生数の変遷と表彰制度 .....	491
1	卒業生数	
2	表彰制度	
<b>第10節</b>	<b>冶金学科・冶金科・採鉱冶金学科・金属工学科・材料開発工学科(材料コース)・知能生産システム工学科(マテリアル系)・マテリアル工学科</b> .....	492
第1項	沿革 .....	492
第2項	講座・人事の変遷 .....	493
1	1949年からの講座及び分野(研究室)の変遷	
2	1949年からの教官及び教員の人事の変遷	
第3項	教育カリキュラムの変遷 .....	493
第4項	研究内容の変遷 .....	502
1	エコプロセッシング	
2	材料物性学	
3	材料組織制御学	
4	材料組織・界面制御学	
5	材料加工学	
6	先端材料加工学	
7	知能材料学	
8	環境工業材料学	
9	極限物性学	
10	機能材料設計学	
第5項	卒業生数の変遷及び表彰制度 .....	504
1	卒業生数の変遷	

2	表彰制度	
第11節	工学研究機器センター	505
第1項	沿革	505
第2項	現有設置機器	506
第3項	センター長及び担当職員	507
第12節	ものづくり創造融合工学教育センター	507
第13節	技術部	509
第1項	技術職員の配置	509
第2項	組織化の取り組み	509
第3項	工学部技術部の組織活動	511

## 第 3 章 自然科学研究科

第1節	歴史と現況	516
第1項	沿革	516
第2項	歴代自然科学研究科長	516
第3項	発足の背景と経緯及びその後の発展	517
1	背景と経緯	
2	発足の過程(1986年～1988年)	
3	工学研究科と理学研究科の統合(1998年)	
4	大学院の重点化と改組(2006年)	
第4項	教員組織・合議体	521
第5項	学生定員・在籍学生数及び学位授与状況	521
第6項	外部資金の獲得	524
第2節	自然科学研究科の具体的内容	527
第1項	教育研究の理念と目的	527
1	理念	
2	教育の目的	
3	研究の目的	
第2項	自然科学研究科の構成	528
1	教育研究組織	
2	自然科学研究科附属総合科学技術共同教育センター	
3	総合的な教育研究	
第3項	教育上の特色	529
第4項	特色ある研究プロジェクト	529
1	COEプログラムによる人材育成	
2	拠点形成B	
3	JST地域結集型研究開発プログラム	
第5項	特色ある教育プロジェクト	530
1	学生の国際化教育	

2	研究開発リーダーや起業家育成教育	
3	留学生の受け入れ促進	
4	人材育成	
<b>第3節</b>	<b>将来の構想</b> .....	531
<b>第4節</b>	<b>各専攻と講座の歴史</b> .....	533
第1項	理学専攻 .....	533
1	数理科学講座	
2	物理科学講座	
3	化学講座	
4	地球環境科学講座	
5	生命科学講座	
第2項	複合新領域科学専攻 .....	537
1	衝撃エネルギー科学講座	
2	生命環境科学講座	
3	複合ナノ創成科学講座	
第3項	産業創造工学専攻 .....	539
1	物質生命化学講座	
2	マテリアル工学講座	
3	機械知能システム講座・先端機械システム講座	
第4項	情報電気電子工学専攻 .....	541
1	先端情報通信工学講座	
2	機能創成エネルギー講座	
3	人間環境情報講座	
4	応用数理講座	
第5項	環境共生工学専攻 .....	544
1	広域環境保全工学講座	
2	社会環境マネジメント講座	
3	人間環境計画学講座	
4	循環建築工学講座	

## 第4章 沿岸域環境科学教育研究センター

<b>第1節</b>	<b>歩みと現状</b> .....	550
1	合津マリンステーション	
2	組織(2010年4月現在)	
3	市民公開講座「有明海・八代海を科学する」	
4	学内講演会	
5	年報	
6	むつごろう通信	
<b>第2節</b>	<b>各分野の歩みと活動</b> .....	554



第1項	生物資源循環系解析学分野 .....	554
1	生態学的な研究	
2	生物多様性に関する研究	
3	水産学的な研究	
第2項	生物資源保全・開発学分野 .....	557
1	研究	
2	教育	
3	社会貢献	
第3項	水・地圏環境科学分野 .....	560
1	組織の構成	
2	分野を設置した目的	
3	分野の特徴	
4	研究成果	
5	教育成果	
6	社会貢献	
第4項	沿岸域社会計画学分野 .....	562
1	沿革と活動	
2	社会貢献	
第3節	将来構想 .....	564

## 第 5 章 衝撃・極限環境研究センター

第1節	歩み .....	568
第1項	衝撃・極限環境研究センター設置までの沿革 .....	568
1	センター設置の経緯	
2	工学部(附属衝撃エネルギー実験所)関係	
3	理学部(極低温装置室)関係	
4	複合極限機能科学分野・物性領域～半導体エレクトロニクス領域への歩み	
第2項	組織・研究室概要 .....	575
1	組織概要	
2	COEプログラムをはじめとする国際連携・社会連携活動の推進	
3	研究室概要	
第2節	各分野の歩みと研究活動 .....	579
第1項	衝撃プロセス工学分野 .....	579
第2項	複合極限機能科学分野 .....	581
第3項	極低温科学分野 .....	582
1	社会的活動	
2	研究・教育用寒剤の学内供給実績等	
第4項	先端極限科学分野(客員分野) .....	584
第3節	将来構想(センター改組) .....	585

## 第 6 章 バイオエレクトロクス研究センター

第1節 設立の経緯・歩み	588
第2節 バイオエレクトロクス研究センターの現状	589
第3節 各分野の研究	591
第1項 基礎バイオエレクトロクス分野	591
第2項 極限バイオエレクトロクス分野	591
第3項 環境バイオエレクトロクス分野	592
第4項 医療バイオエレクトロクス分野	592
第5項 国際連携バイオエレクトロクス分野	593
第4節 将来構想	593

## 第3編 人文・社会科学系

### 第 1 章 法文学部

第1節 法文学部の成立	598
第1項 五高の法文学部案	598
第2項 法文学部の創設	598
第2節 法学科の拡充	599
第1項 法学科拡充をめぐる文科と法科	599
第2項 法学科拡充の過程	599
第3節 教養部の分離と学部の改組	600
第1項 教養部分離の過程	600
第2項 文科の講座変遷	601
第4節 大学紛争と文学部・法学部の創設	602
第1項 学部の組織課題と法学科の拡充	602
第2項 大学紛争と法文学部	602
第3項 学部分離への動き	603
第4項 文学部・法学部への改組構想	605

### 第 2 章 文学部、文学研究科

第1節 文学部の創設	610
------------	-----

第1項	文学部創設の理由と教育目的	610
第2項	文学部既設学科の組織拡充	610
1	哲学科	
2	史学科	
3	文学科	
第3項	地域科学科の理念と創設意義	611
<b>第2節</b>	<b>教養部の廃止と文学部の改組</b>	612
第1項	一般教育と専門教育をめぐる改革過程	612
1	全学への働きかけ	
2	白熱する全学議論	
3	新カリキュラムの確定	
第2項	教養部解体と文学部改組	614
1	教養部解体のプロセス	
2	文学部の改組	
第3項	文学研究科の拡充・発展	617
1	文学研究科の設置	
2	文学部の創設と研究科拡充計画	
3	博士課程設置と修士課程改革	
4	区分制大学院への移行	
<b>第3節</b>	<b>国立大学法人化と文学部</b>	618
第1項	博士課程設置への動きと文学部改革	619
1	法人化問題の現実化	
2	文学部の対処方向	
3	新学科設立への動き	
第2項	2005年度文学部改組	621
1	法人化と文学部	
2	文学部改組の過程	
3	文学部改組の概要	
4	新学科の設置—コミュニケーション情報学科の新設	
5	既存学科の再編統合—総合人間学科の創設	
6	教育課程の大幅な見直し	
第3項	永青文庫研究センターの創設	624
1	「細川家文書」の研究・利活用の歴史	
2	永青文庫研究センターの設置	
<b>第4節</b>	<b>文学部の教育と研究</b>	625
第1項	総合人間学科	625
1	哲学	
2	芸術学	
3	認知心理学	
4	倫理学	



5	社会学、地域社会学	
6	文化人類学	
7	民俗学	
8	地理空間学	
第2項	歴史学科	637
1	アジア史学	
2	西洋史学	
3	文化史学	
4	日本史学	
5	考古学	
第3項	文学科	644
1	日本語日本文学	
2	中国語中国文学	
3	英語英米文学	
4	独語独文学	
5	仏語仏文学	
6	比較文学	
7	言語学	
第4項	コミュニケーション情報学科	655
1	学科誕生の背景と経緯	
2	教員と教育体制	
3	教育・研究上の特色	
第5節	文・法系施設の整備	659
第1項	文法棟本館の建設	660
第2項	法文学部の分離改組と施設整備	660
第3項	旧教養部教員の文法棟移動と施設改修	660
第4項	耐震改修と施設整備	661
第6節	文学会と文学部論叢	662
第1項	法文学会と文学会	662
第2項	法文論叢と文学部論叢	662
第7節	文学部の将来構想	663
第1項	教授層の大量退職と世代交代	663
第2項	学部「学士課程」の整備	663
第3項	大学院社会文化科学研究科と文学部の関係強化	664
第4項	永青文庫研究センターの存続化	664

## 第 3 章 法学部、法学研究科

第1節	法学部の歩み	668
第1項	法学部の創設	668

第2項	教養部廃止と法学部改組	671
1	大学設置基準の大綱化	
2	教養部の廃止	
第3項	法科大学院の設置、熊本大学の法人化と法学部	675
1	法科大学院の設置	
2	熊本大学の法人化	
第4項	法学研究科と法学部	678
<b>第2節</b>	<b>法学部の現状と課題</b>	<b>682</b>
第1項	教育	682
1	法学部教育の理念・目的と特色	
2	入試制度	
3	卒業後の進路	
4	学生の福利・厚生	
第2項	教育・研究体制	708
1	教員組織	
2	研究	
3	組織・管理運営	

## 第4章 社会文化科学研究科

<b>第1節</b>	<b>社会文化科学研究科の歩み</b>	<b>722</b>
第1項	社会文化科学研究科の創設	722
1	社会文化科学研究科の沿革概観	
2	設置の構想と計画策定から設置まで	
第2項	社会文化科学研究科の拡充改組	724
1	修士課程教授システム学専攻の設置	
2	博士前期課程・後期課程(区分制)への移行	
<b>第2節</b>	<b>社会文化科学研究科の教育と研究</b>	<b>727</b>
第1項	人文社会科学系4専攻博士前期課程—2008～2009年度	727
1	博士前期課程の理念	
2	各専攻における教育と研究	
第2項	後期3年博士課程—2002～2007年度	734
1	特徴と実績	
2	各専攻における教育と研究	
第3項	博士後期課程人文社会科学系2専攻—2008～2009年度	736
1	特徴と実績(概観)	
2	各専攻における教育と研究	
第4項	教授システム学専攻	740
1	修士課程から博士前期課程への移行と拡充	
2	大学院GPと「ストーリー型カリキュラム」の導入	

3	博士後期課程の設置	
4	研究活動と外部評価	
<b>第3節</b>	<b>総括と将来構想</b>	743
第1項	運営体制と施設・設備	743
第2項	教育研究の成果	743
第3項	課題と展望	745

## 第 5 章 法曹養成研究科

<b>第1節</b>	<b>大学院法曹養成研究科の創設</b>	748
第1項	創設の経緯	748
第2項	創設に向けての教員研修	749
1	研究者教員に対する研修	
2	実務家教員に対する教育方法の研修	
第3項	教育上の理念・目的と養成する法曹像	749
第4項	教育内容	750
1	教育課程の編成	
2	標準修了年限及び修了要件	
3	履修モデル	
4	三大学教育連携	
第5項	教育方法	752
第6項	成績評価及び進級制度	753
1	厳格な成績評価	
2	進級制度の導入（セメスターごとの進級基準）	
第7項	入学者選抜	753
1	アドミッション・ポリシー	
2	入学者選抜制度の概要	
3	社会人及び非法学部等卒業生受け入れの具体的方策	
4	法律科目試験（既修者認定試験）の実施	
第8項	学生支援	754
1	インストラクター制度の導入	
2	オフィス・アワー制度の導入	
第9項	教員組織（専任教員）	755
<b>第2節</b>	<b>大学院法曹養成研究科の現状と課題</b>	756
第1項	教育	756
1	教育内容	
2	教育方法	
3	成績評価及び進級制度	
4	教育内容等の改善措置	
5	進路・就職状況	



第2項	入学者選抜 .....	761
第3項	学生支援体制 .....	763
1	学習支援等	
2	経済的支援	
3	学生生活に関する支援	
4	身体に障がいのある学生の支援	
5	職業支援（キャリア支援）	
第4項	教員組織 .....	767
1	専任教員の数及び資格	
2	専任教員の採用・昇任にあたっての評価体制	
3	専任教員の配置及び構成	
4	教員の教育環境	
第5項	研究 .....	770
1	研究目的と特徴	
2	研究活動の状況	
第6項	社会貢献・国際交流 .....	772
第7項	管理運営 .....	773
第8項	自己点検評価・教育情報の公表 .....	773

## 第 6 章 教育学部、教育学研究科

第1節	教育学部の歩みと現況 .....	776
第1項	学部発足から教育学研究科設置までの変遷 .....	776
1	学部創設の準備と構想	
2	学部発足と体制の充実	
3	黒髪地区への移転と学部の動向	
4	学部の新体制と組織	
5	新館移転と学部充実	
6	大学紛争とその経緯	
7	学生の動向	
8	学部充実の動向	
第2項	大学院設置以降の変遷 .....	780
1	大学改革をめぐるさまざまな動き	
2	学部改組	
3	教育現場との連携強化と附属教育実践総合センターの改組	
4	国立大学の法人化と学部の中期目標・評価	
5	教職大学院設置に向けた検討と「三位一体の改革」	
第2節	学科の歩みと教育・研究 .....	784
第1項	国語科 .....	784
第2項	社会科 .....	785

1	教室史	
2	現教員の教育と研究	
3	旧教員の研究	
4	研究会	
第3項	数学科 .....	788
1	現教員の研究	
2	旧教員の研究活動	
第4項	理科 .....	790
1	現教員の研究	
2	旧教員の研究	
3	学科での取り組み	
第5項	音楽科 .....	792
第6項	美術科 .....	794
1	美術科の概要	
2	現教員の研究	
3	研究成果発表会	
第7項	保健体育科 .....	795
1	現教員の教育と研究	
2	旧教員の教育と研究	
3	臨海実習について	
第8項	技術科 .....	797
第9項	家庭科 .....	799
1	教室史	
2	現教員の研究テーマ及び教育活動	
第10項	外国語科 .....	801
第11項	教育学科 .....	803
1	沿革	
2	現教員の研究と教育	
3	旧教員の研究と教育	
第12項	心理学科 .....	805
1	教室スタッフの変遷	
2	制度の変遷	
3	現在の教室スタッフの担当授業及び研究	
第13項	特別支援学校教員養成課程 .....	806
1	沿革(教室史)	
2	現教員の教育と研究	
3	旧教員の研究	
第14項	養護教諭養成課程 .....	808
1	熊本大学養護教諭養成所の歩み	
2	養護教諭養成課程の歩みと教育・研究	

第15項	地域共生社会課程 .....	810
1	教室史	
2	現教員の教育と研究	
3	旧教員の教育	
第16項	生涯スポーツ福祉課程 .....	812
1	課程の歩みと研究・教育	
2	旧教員及び現教員の教育と研究	
<b>第3節</b>	<b>教育学研究科通史 .....</b>	<b>814</b>
第1項	教育学研究科の歩み .....	814
第2項	教育学研究科修了生の進路 .....	818
第3項	総括 .....	820
<b>第4節</b>	<b>教育実践総合センター .....</b>	<b>820</b>
第1項	教育工学センターの設置 .....	820
第2項	教育実践研究指導センターへの改組 .....	821
第3項	教育実践総合センターへの改組 .....	822
<b>第5節</b>	<b>附属学校園の歩みと現況 .....</b>	<b>823</b>
第1項	幼稚園 .....	823
1	戦前の概要	
2	学部附属幼稚園として	
3	保育研究の充実	
4	組編成の変遷	
5	園施設の現況	
6	園児のくらし	
7	トピック	
8	歴代園長・副園長・教諭(教官)一覧	
9	歴代教職員一覧	
10	歴代PTA会長名、園児数	
11	今後の発展を期待して	
第2項	小学校 .....	841
1	新しい校舎	
2	校地・校舎	
3	教育研究の歩み	
4	教育実習	
5	学級編制	
6	附属学校の教員	
7	附属小学校のPTA組織	
8	附属小学校の特色	
第3項	中学校 .....	849
1	新たなる歴史に踏み出す	
2	歌い継ぎ歌いつなぐ附属中学校校歌	



3	新しい時代の教育を求めて—附属中学校の使命—	
4	現況	
第4項	特別支援学校 .....	859
1	特殊教育実験学校時代(1950年4月～1958年3月)	
2	特殊教育の充実期(1958年4月～1965年3月)	
3	養護学校時代～京町地区時代～(1965年4月～1971年3月)	
4	養護学校黒髪地区時代(1971年4月～)	
5	特別支援学校時代(現況)	
6	歴代PTA会長、校長、副校長、教頭名等一覧	
第6節	将来構想 .....	866

## 第 7 章 特別支援教育特別専攻科

第1節	歩みと現況 .....	870
第1項	臨時養護学校教員養成課程の設置とその時代(1973年まで) .....	870
第2項	特殊教育特別専攻科の時代(1973年～2001年) .....	872
第3項	特別支援教育特別専攻科の時代(2001年～現在) .....	874
第2節	特別支援教育特別専攻科の教育と研究 .....	877
第1項	特専のカリキュラムの変遷 .....	877
第2項	特別支援教育特別専攻科における研究 .....	881
第3節	将来構想 .....	882
第1項	現職教員の再教育の場としての機能の強化 .....	882
第2項	特別支援教育への要望に応える .....	882

## 第 8 章 養護教諭特別別科

第1節	沿革 .....	886
第2節	養護教諭特別別科の近況 .....	886
第3節	近年の特別別科入学生の特徴 .....	887
第4節	特別別科担当教員について .....	888

# 第4編 学内共同教育研究施設系

## 第1章 附属図書館

第1節 歩みと現況 .....	894
第1項 図書館の発足 .....	894
第2項 機構の変遷 .....	895
第3項 施設・設備の変遷 .....	896
1 中央館	
2 医学系分館	
3 薬学部分館	
第2節 図書館の活動 .....	898
第1項 図書館の業務 .....	898
1 資料の受入業務	
2 目録業務	
3 図書の閲覧・貸出	
4 参考業務	
5 文献複写	
第2項 図書館業務の電算化・電子図書館への対応 .....	899
1 業務電算化の歩み	
2 電算化による新たな業務	
3 熊本大学学術リポジトリ	
4 電子図書館の構築	
第3項 利用者サービスの充実 .....	902
1 利用者サービスの展開	
2 利用者支援(情報リテラシー教育)	
3 利用者サービスの充実	
第4項 利用促進活動 .....	903
1 文学賞の創設	
2 学生選書員による学習用図書の選書	
3 ロビー展示	
第5項 学術資料調査研究推進室の活動 .....	904
第3節 図書館資料 .....	905
第1項 蔵書の状況 .....	905
第2項 貴重書及び特殊文庫資料 .....	905

1	保管状況	
2	貴重資料展	
3	重要文化財の指定と修復	
4	古文書勉強会の活動	
5	その他	
第3項	図書館資料の運用	910
第4節	将来への展望	912

## 第 2 章 保健センター

第1節	保健センターの設立と発展	922
第1項	保健管理センター設立以前	922
第2項	保健管理センターの設立後	923
第3項	健康管理部局としての保健センターの新たな出発	924
第2節	保健センターの管理運営体制と業務	925
第1項	保健センターの管理・運営組織	925
第2項	保健センターの業務と活動	926
1	学生の健康管理業務	
2	職員の健康管理業務	
3	保健センターの日常診療受診	
4	保健センターの相談業務	
5	危機管理としての感染対策	
6	保健センターの学内環境対策	
7	保健センターの教育・研究	
8	保健センターの広報活動	
第3節	保健センターの将来構想	934

## 第 3 章 大学院先導機構

第1節	沿革	942
第2節	大学院先導機構の活動	943
第1項	拠点形成研究	943
第2項	COEプログラム	945
1	21世紀COEプログラム	
2	グローバルCOEプログラム	
第3項	テニユア・トラック制度	948
第3節	将来構想	949



## 第 4 章 イノベーション推進機構

第1節 沿革	952
第1項 緒言	952
第2項 設立に至る経緯	953
第2節 各部門の活動	957
第1項 知的財産部門	957
1 概要	
2 知的財産ポリシー	
3 活動実績	
第2項 産学官地域連携部門	959
1 概要	
2 広報・発表活動	
3 事業化・起業化促進活動	
4 国内外連携活動	
5 熊本県・産業界と連携した産学官連携プロジェクトの推進	
第3項 グローバル化推進部門	961
1 概要	
2 活動実績	
第3節 地域共同ラボラトリー	962
第1項 経緯	962
第2項 人員構成	963
第3項 管理及び業務	964
第4項 地域共同ラボラトリーの施設及び設備	964
第5項 地域共同ラボラトリーの活動	965
第6項 実験室の利用	965
第7項 地域共同ラボラトリーに導入された主な装置	967
第8項 課題	967
第4節 ベンチャービジネスラボラトリー	968
第1項 経緯	968
第2項 主な活動	968
1 大学院生起業化プロジェクト	
2 大学院生・教員共同起業化プロジェクト	
3 大型研究プロジェクト	
第3項 VBLの施設と設備	970
第5節 インキュベーションラボラトリー	970
第1項 経緯	970
第2項 主な活動	970
第3項 施設概要	971

第4項	利用資格	971
第5項	利用実績	971
<b>第6節</b>	<b>KICO所属人員の変遷、知的財産及び産学連携の成果</b>	<b>972</b>
第1項	歴任教員	972
第2項	歴代客員教授	972
第3項	発明実績	974
第4項	共同及び受託研究実績	975
第5項	有体物提供実績	976
<b>第7節</b>	<b>大学発ベンチャー</b>	<b>976</b>
<b>第8節</b>	<b>連携機関</b>	<b>977</b>
第1項	イノベーション推進人材育成センター（HUREC）	977
1	経緯	
2	取り組み事業内容	
3	取り組み状況	
4	今後について	
第2項	東京リエゾンオフィス	978
第3項	熊本大学関西リエゾンオフィス	979
第4項	熊本TLO	979
<b>第9節</b>	<b>将来構想</b>	<b>980</b>

## 第 5 章 国際化推進機構、国際化推進センター

<b>第1節</b>	<b>歩み</b>	<b>984</b>
<b>第2節</b>	<b>留学生センター</b>	<b>984</b>
第1項	沿革	984
第2項	留学生センター設立までの概要	984
第3項	留学生センター設置後	985
第4項	留学生センターの組織・運営	986
第5項	各部門の活動	987
1	日本語教育部門	
2	指導・相談部門	
3	その他	
<b>第3節</b>	<b>国際化推進機構</b>	<b>988</b>
第1項	沿革	988
第2項	国際化推進機構への改組の理由と目的及び機構の概要	989
1	機構設置の理由・目的	
2	機構の概要	
第3項	国際化推進センターの組織と運営	991
第4項	各部門の活動	992
1	国際交流支援部門	

2 国際語学部門	
第5項 その他	992
<b>第4節 将来構想</b>	995
第1項 戦略的連携：世界に開かれた大学教育・学術研究のために	996
第2項 人材の流動化：優秀な人材の獲得と国際的な人材育成のために	996
第3項 情報発信：国際的存在感・ブランド化を向上させるために	997
第4項 英語共用語化：世界水準の教育研究を実現するキャンパス環境の構築のために	997

## 第 6 章 総合情報基盤センター

第1節 総合情報基盤センターの歩み	1000
第2節 熊本大学電子計算機室（1964年～1985年）	1004
第1項 電子計算機室の施設・設備と当時の状況	1004
第3節 熊本大学情報処理センター（1986年～1990年）	1005
第1項 センター施設	1005
第2項 システム構成	1007
第4節 熊本大学総合情報処理センター（1990年～2002年）	1008
第1項 センター施設とシステム構成	1008
第2項 情報通信関係施設・設備	1012
第3項 全学の高度情報化への歩み「熊本大学情報環構想」	1015
第5節 熊本大学総合情報基盤センター（2002年～現在）	1016
第1項 総合情報基盤センターへの改組	1016
第2項 KUICギガ・ネットワークシステム及び全学無線LANの稼働	1017
第3項 総合情報基盤センター計算機システムの更新	1019
第4項 情報教育に関する取り組み	1021
第5項 eラーニングに関する取り組み	1024
第6項 情報セキュリティに関する取り組み	1026
第7項 外部評価への取り組み	1027
第6節 熊本大学総合情報基盤センターの将来	1029

## 第 7 章 大学教育機能開発総合研究センター

第1節 沿革	1032
第2節 各部門の活動	1034
第1項 教育システム開発部門	1034
1 教育GP等の取り組み	
2 教育プログラムの開発及び教育組織の改革	
3 日本初のeラーニング専門家養成大学院の創設	
4 教育の国際化	

5	学士課程教育の構築	
6	その他	
第2項	FD・教育評価部門 .....	1037
1	2003(平成15)年度	
2	2004(平成16)年度	
3	2005(平成17)年度	
4	2006(平成18)年度	
5	2007(平成19)年度	
6	2008(平成20)年度	
7	2009(平成21)年度	
第3項	カリキュラム開発部門 .....	1042
1	カリキュラム開発部門	
2	CALL担当	
第3節	課題と将来への展望 .....	1049

## 第 8 章 政策創造研究教育センター

第1節	はじめに .....	1054
第2節	生涯学習教育研究センター史 .....	1055
第1項	生涯学習教育研究センターの設立と活動 .....	1055
第2項	大学の地域貢献 .....	1056
第3節	政策創造研究センター史 .....	1057
第1項	構想と計画策定 .....	1057
第2項	展開 .....	1058
第3項	政策創造研究教育センターへの発展(政創研と生涯学習センターの統合) .....	1059
第4節	政策創造研究教育センターの運営と取り組み .....	1061
第1項	政策創造部門の活動～研究と地域貢献 .....	1062
1	プロジェクト研究の展開と政策提言	
2	サイエンスショップ型研究	
第2項	教育と地域貢献 .....	1065
1	政策教育	
2	大学院レベルの政策教育へ	
3	市民向けシンポジウム、フォーラム	
第3項	生涯学習部門の活動 .....	1066
第4項	放送講座の提供 .....	1067
1	テレビ講座	
2	ラジオ講座	
第5項	熊本大学ブックレット .....	1068
第6項	その他 .....	1068
1	自治体専門職員研修支援	



## 2 総合学習支援事業

第5節 おわりに .....	1069
----------------	------

# 第 9 章 五高記念館

第1節 第五高等学校 .....	1072
第2節 熊本大学総合研究資料館設置準備委員会 .....	1072
第3節 熊本県文化協会による一般公開 .....	1075
第4節 熊本大学資料館に関する検討委員会 .....	1077
第5節 熊本大学による五高記念館の運営 .....	1078
第6節 熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム構想 .....	1079
第7節 学内共同教育研究施設及び博物館相当施設としての五高記念館 .....	1081

# 第 10 章 eラーニング推進機構

第1節 設立趣旨と背景 .....	1084
第1項 設立背景 .....	1084
第2項 組織・運営 .....	1085
1 eラーニング推進室	
2 eラーニング授業設計支援室	
3 アプリケーション開発室	
4 システム管理運営室	
5 各ワーキンググループ	
第2節 ICTを活用した教育改善の成果 .....	1087
第1項 授業用eラーニングコンテンツ .....	1087
1 2007(平成19)年度	
2 2008(平成20)年度	
3 2009(平成21)年度	
第2項 職員研修用コンテンツ .....	1088
1 2008(平成20)年度	
2 2009(平成21)年度	
第3項 eラーニングに関する広報・イベントなど .....	1090
1 2007(平成19)年度	
2 2008(平成20)年度	
3 2009(平成21)年度	
第4項 その他 .....	1092
1 2008(平成20)年度	
2 2009(平成21)年度	
第3節 今後の展開 .....	1093

## 第 11 章 環境安全センター

第1節 環境安全センターの歩みと現状	1096
第1項 廃液処理委員会	1096
第2項 環境保全委員会	1100
第3項 安全管理委員会	1101
第4項 環境保全センター	1103
第5項 環境安全センター	1104
第2節 環境安全センターの将来構想	1107

## 第 12 章 教養教育実施機構

第1節 教養教育実施機構の設置とそれ以前	1110
第1項 教養教育実施機構の設置	1110
第2項 教養部以前（学内措置としての教養部）	1110
第3項 教養部	1112
1 教養部の独立	
2 教養部のカリキュラム	
3 学園紛争	
4 大学設置基準の改正とくさび型教育	
5 新カリキュラム構想	
6 設置基準の大綱化と教育課程改革構想	
7 新カリキュラムの大枠とその問題点	
第4項 大学教育研究センター教育部	1121
1 教養部の廃止と大学教育研究センターの設置	
2 教養教育の改革へ向けて	
3 外国語教育・情報教育の充実	
4 シラバスの作成・FD活動	
第2節 教養教育実施機構の設置と現在	1126
第1項 大学教育研究センターの改組と機構の設置	1126
第2項 21世紀熊本大学教養教育プログラム	1128
1 「21世紀教養教育目標」の策定	
2 「新カリキュラム」の意義とその問題点	
3 21世紀教養教育カリキュラムの構築	
4 部分的CAP制の導入	
5 実施体制の改善	
6 総合科目の学際科目への切り替え	
7 教養教育における質の管理と向上システム	
第3項 教養教育の現状と将来への展望	1133

- 1 学士一貫教育の実現
- 2 改革の必要性
- 3 改革へ向けて

## 第 13 章 埋蔵文化財調査室


第 1 節 沿革 .....	1140
第 2 節 活動の軌跡 .....	1142
1 調査活動	
2 年報・報告書	
3 普及活動	
第 3 節 構内遺跡と調査成果 .....	1145
第 1 項 黒髪地区 .....	1145
1 遺跡の概要	
2 調査成果	
第 2 項 本荘・九品寺地区 .....	1147
1 遺跡の概要	
2 調査成果	
第 3 項 大江地区・大江総合運動場 .....	1151
1 遺跡の概要	
2 調査成果	
第 4 項 附属小・中学校、附属教育実践総合センター .....	1151
1 遺跡の概要	
2 調査成果	
第 5 項 合津マリンステーション .....	1152
1 遺跡の概要	
2 調査成果	
第 6 項 構内遺跡の調査成果と課題 .....	1153
第 4 節 今後の課題と将来への展望 .....	1154

## 第 14 章 事務組織

第 1 節 事務局 .....	1158
第 1 項 事務局の組織の変遷 .....	1158
1 新制国立大学発足時（1949年 6 月）以降の事務組織	
2 部制施行（1964年 4 月）以降の事務組織	
3 国立大学発足後30年（1979年 4 月）以降の事務組織	
4 事務一元化（1999年 7 月）以降の事務組織	
5 国立大学法人化（2004年 4 月）以降の事務組織	
第 2 項 諸規則の変遷、諸行事等 .....	1167

1	諸規則の変遷	
2	諸行事等	
第3項	自己点検・評価 .....	1174
1	評価体制の整備	
2	自己点検・評価の実施状況	
3	教員の個人活動評価の実施状況	
4	法人評価の実施状況	
5	認証評価の実施状況	
6	熊本大学年報の作成状況	
第4項	定員と人事 .....	1177
1	定員の推移、定員削減	
2	他機関との人事交流	
3	事務系職員採用試験と研修制度	
4	歴代役職者一覧	
第5項	財政 .....	1187
1	歳出(支出) 予算	
2	歳入(収入) 予算	
3	外部資金	
第6項	土地・建物の変遷 .....	1193
1	土地・建物の変遷及び管理運営	
2	施設・設備の拡充及び整備状況	
第7項	事務情報化の推進 .....	1200
第8項	国際交流の進展とその支援体制 .....	1202
第9項	研究支援体制の整備 .....	1203
第10項	社会との連携 .....	1205
第11項	広報 .....	1206
<b>第2節</b>	<b>学務部</b> .....	1207
第1項	学務部の組織の変遷 .....	1207
第2項	学生支援 .....	1207
第3項	教育支援 .....	1210
第4項	学務情報管理の電算化 .....	1210
第5項	教員免許資格等 .....	1211
第6項	入学試験 .....	1213
第7項	就職支援 .....	1214
<b>第3節</b>	<b>部局の事務部</b> .....	1215
第1項	人文社会科学系事務部 .....	1215
1	法文学部事務部	
2	文学部・法学部事務部	
3	文学部事務部、法学部事務部	
4	人文社会科学系事務部	



第2項	教育学部事務部	1217
1	教育学部事務部	
2	養護教諭養成所事務部	
第3項	自然科学系事務部	1219
1	理学部事務部	
2	工学部事務部	
3	自然科学系事務部	
第4項	生命科学系事務部	1220
1	医学部事務部	
2	体質医学研究所事務部	
3	医療技術短期大学部事務部	
4	薬学部事務部	
5	医学・薬学等事務部	
6	生命科学系事務部	
第5項	医学部附属病院事務部	1223
1	医学部附属病院事務部(1949年～2002年)	
2	学部との事務部統合(2003年～2005年)	
3	医学部附属病院事務部の再置(2006年～)	
第4節	事務組織の将来への展望	1227
第1項	将来に向けた事務改革に対する基本的考え方	1227
第2項	2010年度の事務改革の骨子	1228
1	組織再編	
2	人事制度の刷新	
3	業務の効率化	
第3項	新しい事務体制への期待	1230
	図・表・写真一覧	1233
熊本大学60年史	部局史編 執筆者・協力者	1254
熊本大学60年史	編纂委員会	1261
熊本大学60年史	部局史編 系代表者	1263
熊本大学60年史	編纂室	1263

編集後記

1. 本書は、熊本大学60年史編纂委員会が編纂する『熊本大学60年史』全3巻（通史編、部局史編、写真集）のうちの部局史編である。
1. 部局史編では、原則として本学が60周年を迎えた2009年度の末（2010年3月31日）に熊本大学を構成する学部・研究科・研究部、附置研究所、教育研究施設等の部局及び事務局をはじめとする事務組織について記述した。これ以前に廃止・転換・統合された部局は、原則として後継部局ないし関連する部局に収めた。なお、国際化推進機構と国際化推進センターについては、設立の経緯及びその目的・業務に鑑みて、本来は別の組織ではあるが、同じ章で扱うこととした。
1. 既に廃止された部局である法文学部については個別の章を立て、教養部については教養教育実施機構及び通史編で扱うこととした。また、2010年度以降、下記の部局の改組・新設が行われたが、これらについては、関連部局において将来構想等として記述した。
  - 2010年度 薬学部附属薬用資源エコフロンティアセンター、生命科学研究部附属エコチル調査南九州・沖縄ユニットセンター、生命科学研究部附属臨床医学教育研究センター
  - 2011年度 工学部附属革新ものづくり教育センター、教養教育機構、埋蔵文化財調査センター、先進マグネシウム国際研究センター
  - 2012年度 発生医学研究所附属臓器再建研究センター
1. 部局史編の構成は、官制順（法令における配列順）にはよらず、組織の発足の経緯等に鑑みて、本学が教育・研究の柱とする理念「人の命」「人と自然」「人と社会」に沿う形で次のようなグループ分けをし、編として構成した。各編の構成の理由については、編扉に記載した。
  - 第1編 生命科学系
    - 医学部、医学教育部、医学部附属病院、保健学教育部、薬学部、薬学教育部、生命科学研究部、生命資源研究・支援センター、エイズ学研究センター、発生医学研究所
  - 第2編 自然科学系
    - 理学部、工学部、自然科学研究科、沿岸域環境科学教育研究センター、衝撃・極限環境研究センター、バイオエレクトロニクス研究センター
  - 第3編 人文・社会科学系
    - 法文学部、文学部、文学研究科、法学部、法学研究科、社会文化科学研究科、法曹養成研究科、教育学部、教育学研究科、特別支援教育特別専攻科、養護教諭特別別科

#### 第4編 学内共同教育研究施設系

附属図書館、保健センター、大学院先導機構、イノベーション推進機構、国際化推進機構、国際化推進センター、総合情報基盤センター、大学教育機能開発総合研究センター、政策創造研究教育センター、五高記念館、eラーニング推進機構、環境安全センター、教養教育実施機構、埋蔵文化財調査室、事務組織

1. 部局史編は、熊本大学60年史編纂委員会において決定した編集方針に基づき、各部局編纂委員会の責任において執筆・編集した。ただし、特別の事情がある部局においては、別に方針を定めて執筆にあたった。
1. 本文の記述に際しては、原則として常用漢字、現代仮名づかいを用いた。ただし、人名などの固有名詞や仮名表記では意味を取りにくいものについては、この限りでない。
1. 資料の引用にあたっては、原則として常用漢字を用いたが、仮名づかい、送り仮名、人名は原文によった。
1. 法令の日付及び法令による諸組織・施設の設置・改組・廃止の日付については、原則として法令交付日に基づくよう努めた。ただし、組織の設置・改廃等の年月日について法令と実態とが異なっている場合は、各執筆者の解釈・行論に委ねた。
1. 年代の表記は西暦を主とし、適宜和暦を（ ）内に補った。
1. 使用した図・表・写真については、巻末に一覧及び掲載ページを記した。